

平成8・9年度視覚部の学生による授業評価実施報告

教務委員会視覚部分科会

(平成10年度委員) 伊奈 諭、形井秀一、川合秀雄、青木和子、石田久之

(平成9年度委員) 伊奈 諭、森山朝正、小池勝明、加藤 宏、大武信之

要旨：筑波技術短期大学視覚部では自己点検自己評価の一環として「学生による授業評価」を検討し、平成7年度から9年度までの3年計画に基づいて実施した。平成7年度の実施報告についてはすでに(テクノレポートNo.4にて)行ったので、ここでは平成8・9年度の実施内容および結果について報告する。

はじめに

平成10年度の学校基本調査によれば、大学・短大への進学率は48.9%、専門学校まで含めた進学率はいよいよ約7割(68.3%)にせまった⁽¹⁾。これは「高等教育ユニバーサル化時代(誰もが高等教育に進学する時代)」天野(1997)⁽²⁾が現実のものとなったことを意味している。この事態は今後も急速に進み、平成21年以降はいよいよ志願者の大学全入時代が到来すると予測されている⁽³⁾。大学をめぐる状況は急激に変化しつつある。いったいすべての国民が受ける高等教育とはどのようなものか。高等教育にふさわしい授業運営は可能なのだろうか。

大学の 대중化が進む中、大学の改革は過去にも何度か叫ばれてきた。平成3年の大学設置基準の大綱化に始まる今回の改革は、第三の教育改革の波(明治5年の学制発布、昭和24年の新制大学、平成3年の大学設置基準の大綱化)とも、大学改革第四期(明治19年「帝国大学令」、大正7年「大学令」、昭和24年「新制大学」、平成3年以降現在まで)とも形容される大きな潮流となっている(清水、1997)⁽⁴⁾。自己点検・自己評価の名の下にさまざまな取り組みが、かつてない勢いで全国の大学に導入された。学生による授業評価もそのひとつである。本学視覚部でも教務委員会視覚部分科会を中心に平成6年度から準備に入り、7年度を実施初年度として3ヶ年計画として実施してきた。当時は国立大学でも半数程度だった実施大学数はその後急激に上昇し、平成9年度では76大学(約8割)にまで到達している(図1)。

1 授業評価をめぐる本学特有の問題

大学審議会が掲げる21世紀の大学像は、学生の流動化・社会人教育・リカレント教育(再教育・回帰教育)などさまざまな教育形態を受け入れる形に進むと分析し

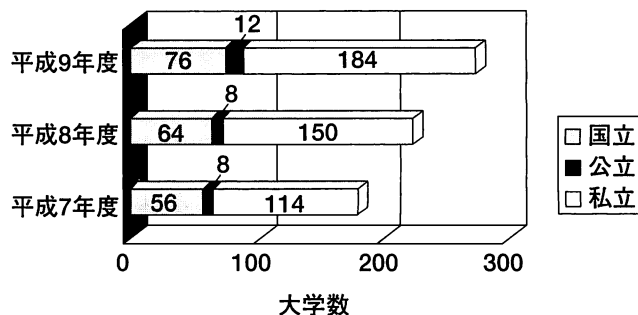


図1 学生による授業評価の実施大学数

ている。開学当初から大学卒や社会人・留学生など多様な入学生を受け入れてきた視覚部は障害者が入学しているという意味において先駆けであるだけでなく、入学生の質の多様化という点でも将来の高等教育のひとつの方向を示してきたといえる。当然、授業に要求される課題も障害補償にとどまらず、学力の多様性への対応という問題も抱えていたのである。

設置基準の大綱化により、全国の大学は一斉に授業評価システムを導入したが、本学においては学生の障害程度の個人差、学力の個人差へ対応するため、何らかのフィードバックは必須であったといえる。加えて、本学は開設して日が浅いということもあり、障害者教育はもとより、教育経験の浅い教員が多かった。学生の評価を聞くという姿勢は教員のファカルティ・ディベロップメント(教員の授業内容・方法改善のための組織的取り組みの総称)の面からも重要であった。

本稿では視覚部における「学生による授業評価」の取り組みを、前回報告⁽⁵⁾以降の平成8・9年度の実施状

況を中心に述べる。

2 平成8・9年度授業評価の実施

視覚部では「学生による授業評価」を平成7年度からの3年計画で開始した。初年度の実施報告はすでに公開されている⁽⁵⁾。初年度の精神を踏襲しつつ、その反省に基づいて実施方法やアンケート内容などに細かな改善を図りながら、平成8・9年度は実施した。主な改善は実施科目数の増大を図ること、障害補償に対する評価を入れること、配布・実施・回収方法と集計方法の適正化などである。

原則として8・9年度の実施内容は同様なので、以下に統一して記す。参考までに平成9年度の実施要領を付録に示す。

2.1 調査目的と適用範囲

学生からみた個々の授業に対する評価を受け、担当教官が授業内容、授業方法の改善に資するために行う。従

って教官の評価には使用するものではなく、教官個人の情報が分かるような公表は行わない。教官にフィードバックされるものは全体統計と自分の担当する個別授業科目の評価のみである。

2.2 実施方法

原則として3学期実施科目の各担当教官が3学期の最後の授業時間を使って行った。評価用紙は障害の程度に応じて普通文字、拡大文字、点字版を用意し、担当教官が配布した。回収と集計方法については2.4節で述べる。平成9年度の実施手順を図2に示す。

2.3 評価項目

平成8・9年度の調査票を以下に示す。当初の方針通り、一貫性を保つため3年間は基本的に平成7年度の質問項目を変えずに行うこととしたが、今回は本学の特徴である視覚障害補償の実施状況に対する評価を教材の整備と教官の姿勢の二つに分けて問うよう変更した。それ

平成9年度学生による授業評価実施の手順

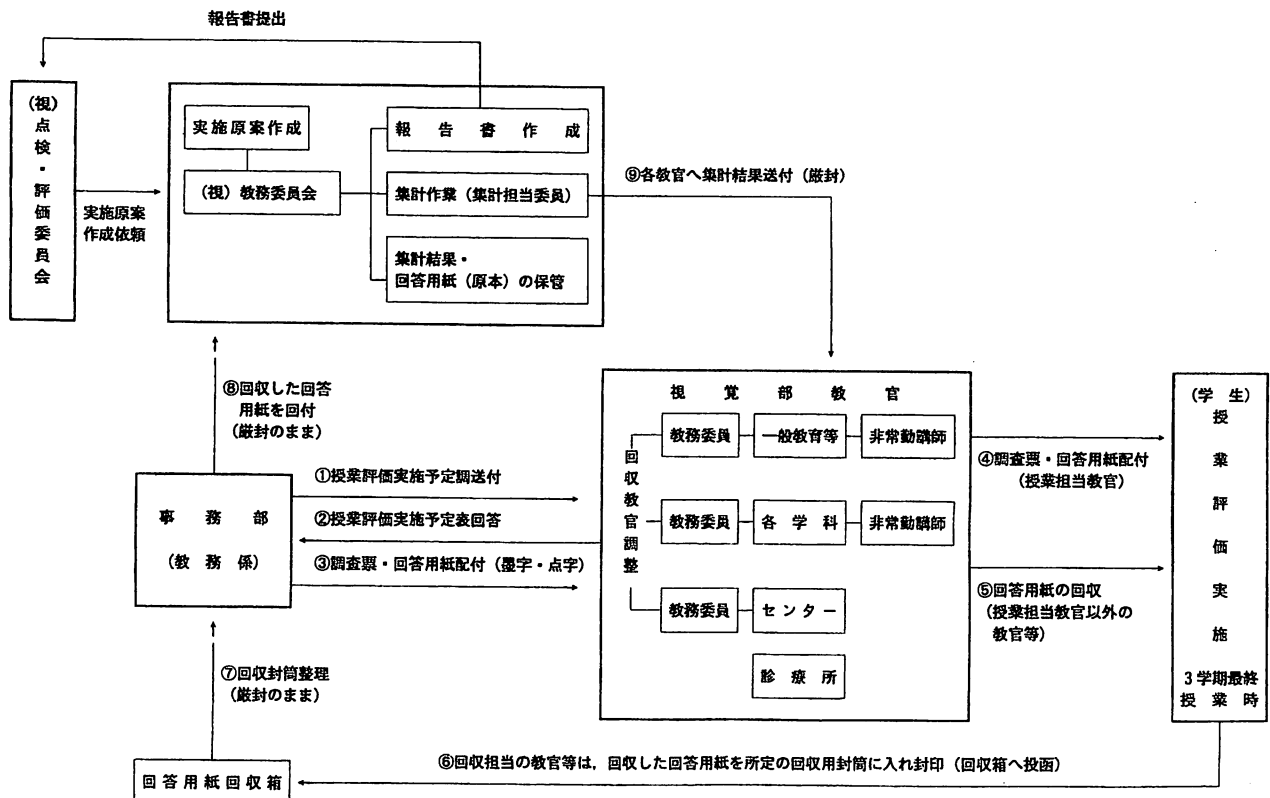


図2 学生による授業評価実施の手順

が質問番号の7, 8番である。

平成9年度学生による授業評価に関する調査票

この調査は、本学視覚部で行われている授業に対して学生からの評価を聞くためのものです。教育を受けている側からの率直な意見を書いてください。今後の教育をより効果的かつ魅力あるものにしていくための参考にしたいと思います。

なお、この授業評価の結果が、あなたの成績に影響することは一切ありません。

以下の各質問項目に対して、最もあてはまると思う評価を数字で別紙回答用紙に記入してください。

各数字は、各質問項目に対して、それぞれ次の評価を指しています。

- 5 (強くそう思う。) 4 (ややそう思う。) 3 (どちらともいえない。)
2 (あまりそう思わない。) 1 (まったくそうは思わない。)

(質問項目)

1. 授業に対する教官の熱意が感じられましたか。
2. 授業の内容は授業概要に従って進められていましたか。
3. 授業の進め方のスピードは適切でしたか。
4. 教官は学生によく理解できるように説明しましたか。
5. 教官はこの教科の内容について十分な知識を持っていると感じましたか。
6. 質問や討議などへの学生の参加は十分うながされていましたか。
7. 教科書・補助資料等の学習教材に関して、具体的な障害補償の工夫が施されていましたか。特に良かった点あるいは問題があった点は、具体的に回答用紙に記入してください。
8. 教官は障害補償のための授業改善に積極的に取り組んでいると感じましたか。特に良かった点あるいは問題があった点は、具体的に回答用紙に記入してください。
9. 個々の学生の進捗に対応した指導が行われましたか。
10. あなたはこの授業の内容を十分に理解したと感じていますか。
11. 教科内容は各種資格試験・就職試験等にも役立つと思いますか。
12. この授業によって学問の基礎的方法論や考え方が身についたと思いますか。
13. この授業によって視野が広がって教養が身についたと思いますか。
14. この授業によって職業自立に必要な専門知識が身についたと思いますか。
15. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。
5 毎回必ず出席した。 4 ほとんど出席した。 3 だいたい出席した。
2 あまり出席しなかった。 1 ほとんど出席しなかった。
16. あなた自身はこの授業科目のためによく学習をしたと思いますか。
17. 全体としてみて、この授業は有意義であったと感じましたか。

2. 4 アンケートの回収と集計

学生の気持ちを考慮して評価結果の回収は、評価授業の担当以外の教官が行うように各学科ごとにあらかじめ実施日と回収担当者のスケジュールリングが行われ、その計画に基づいて行われた。回収されたアンケート結果の集計は当初より外部に委託して行ってきた。しかし7・8年度学生アンケートの意見にも現れていたように、アンケート結果がどのような形で担当教官の眼に触れることになるのかが明確に知らされていないため、教官

の眼を意識して不安を持ちながら回答した形跡も否定できなかった。このため平成9年度からは、「集計の方法および集計の実施は外部の第三者に依頼するため、担当教官には回答内容が直接的に渡らない」旨を学生に文書で十分に周知する事とした。こうして回収した用紙は誰の眼にも触れることなく袋詰めにして、集計外注先に渡されて科目ごとの個別集計と全体としての集計が行われた後、担当科目集計結果と全体統計表のみを各教官にフィードバックした。原紙類はすべて堅く封印されたままロックされている。

2. 5 教官へのフィードバック内容

平成8年度全体統計表を図3に、平成9年度全体統計表を図4示す。また科目別の集計は担当教官以外には公表できないため、非実在科目(進退整理学)によるサンプルを図5に示した。(サンプルに記載された内容は実在しない科目であり、実際の回答および集計結果とは何の関係もないものである。)

2. 6 実施率

平成7年度の実施の有無の選択はかなり各教官の判断に任されていたが、8年度からは教官一人当たり最低一科目以上の教科について授業評価を実施することとする当初の前提を徹底した。

(1) 平成8年度の実施率

・一般教育	27科目 (3学期開設授業科目の90.0%)
・鍼灸学科	21科目 (3学期開設授業科目の61.8%)
・理学療法学科	16科目 (3学期開設授業科目の47.1%)
・情報処理科	28科目 (3学期開設授業科目の59.6%)
合計	92科目 (3学期開設授業科目の63.9%)

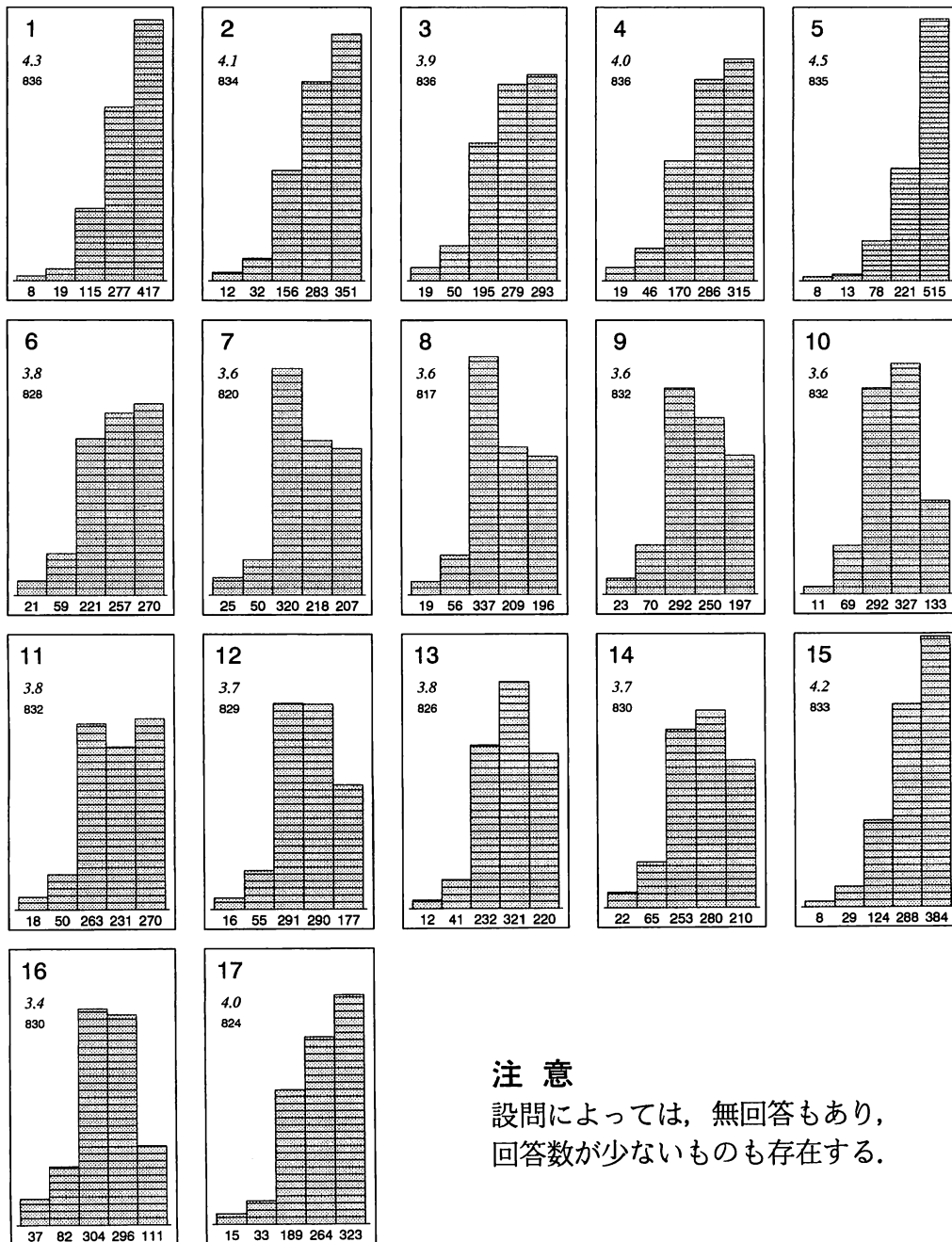
2年目であることと実施科目の下限を設けたことにより平成7年度(前年度)の31.2%に比べて倍増している。

(2) 平成9年度の実施率

・一般教育	23科目 (3学期開設授業科目の65.7%)
・鍼灸学科	16科目 (3学期開設授業科目の44.4%)
・理学療法学科	16科目 (3学期開設授業科目の44.4%)
・情報処理科	25科目 (3学期開設授業科目の55.6%)
合計	80科目 (3学期開設授業科目の52.6%)

平成8年度(2年目)の63.9%から9年度(3年目)では52.6%と減少した。

平成8年度 視覚部 学生による授業評価 総合集計結果



注意

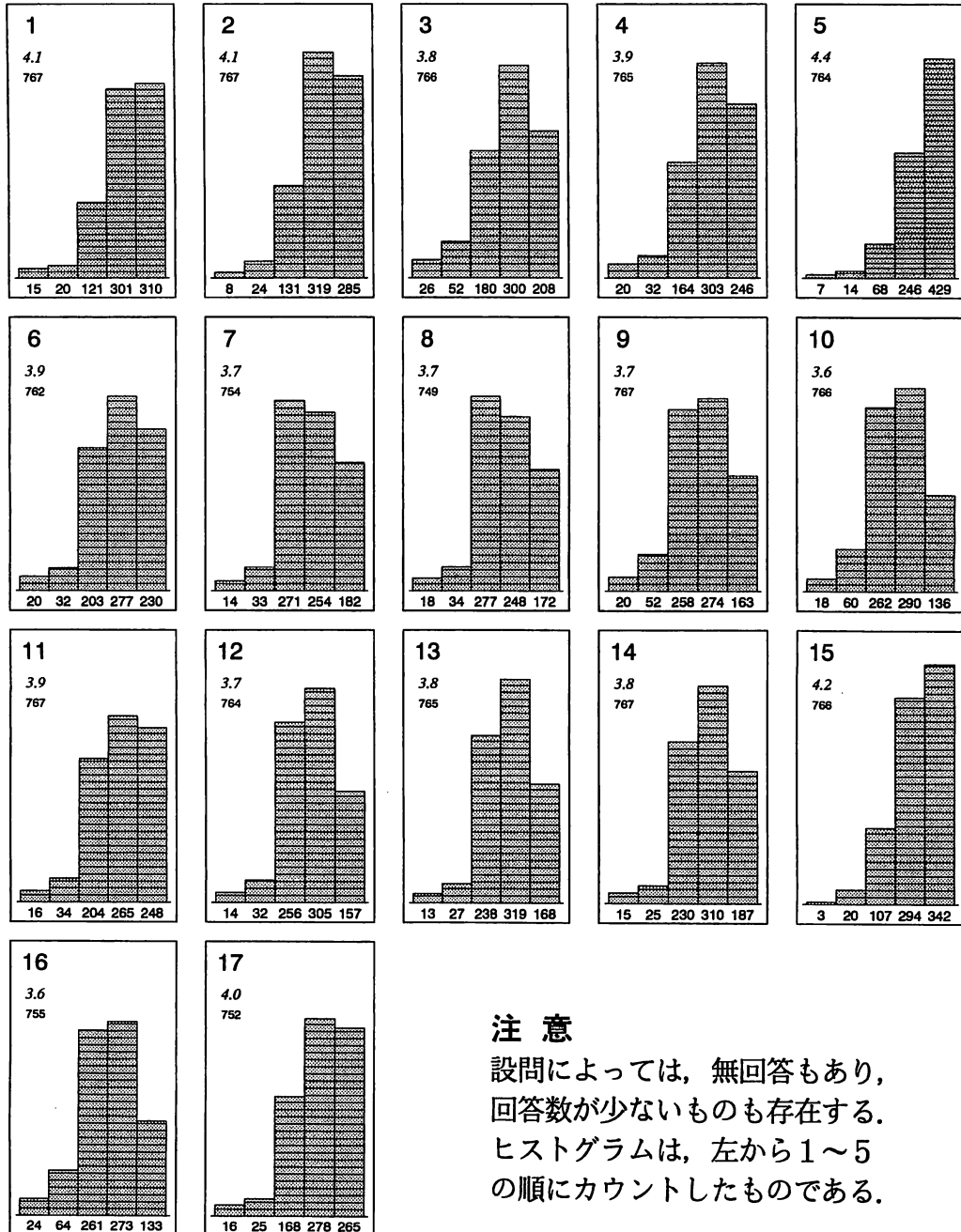
設問によっては、無回答もあり、
回答数が少ないものも存在する。



問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
4.3	4.1	3.9	4.0	4.5	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6
問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17			
3.8	3.7	3.8	3.7	4.2	3.4	4.0	視覚部 教務委員会		

図3 平成8年度全体統計表

平成9年度 視覚部 学生による授業評価 総合集計結果



注意

設問によっては、無回答もあり、
回答数が少ないものも存在する。
ヒストグラムは、左から1～5
の順にカウントしたものである。



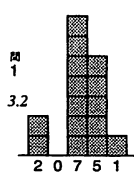
問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	
4.1	4.1	3.8	3.9	4.4	3.9	3.7	3.7	3.7	3.6	
問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	視覚部 教務委員会			
3.9	3.7	3.8	3.8	4.2	3.6	4.0				

図4 平成9年度全体統計表



進退整理学 (非実在科目)

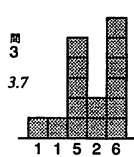
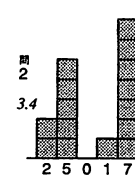
#5023



問1

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	5	5	3	3	2	3	4	5	4	3	4	5	4	3	4	5

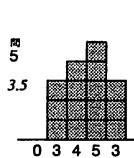
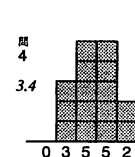
 問7 茶髪の度合と成績には、相関関係はないと思います。戦前の生まれですか？



問2

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4	5	5	4	3	4	5	2	4	4	3	3	5	4	4	5	2

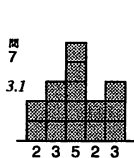
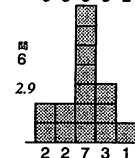
 全体 先生のネクタイ、どこで買われたのですか。趣味が悪いと思います。



問3

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	5	4	4	4	5	3	2	4	5	4	5	5	5	2	3	5

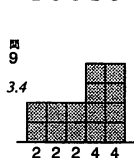
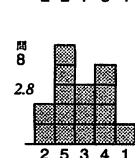
 全体 講義をサボるのは確信犯なのだから、電話をかけてきて起こさないで欲しい。



問4

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
5	5	5	3	5	3	2	3	4	3	4	3	2	4	1	5	4

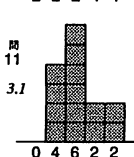
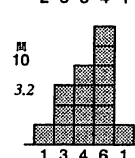
 全体 退学していった友人が言っていました。この枝豆を辞めたいと言ったら、今の学科に残ることが「君にとって一番の幸せだ」と言われたそうです。これってきっと、その先生は別の人生を指南できるほどの幅が無いのか、学科を否定されたか、自分自身を否定されたとも思っているのかなぁ。



問5

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	5	1	3	4	3	4	5	3	2	3	3	4	5	1	3	4

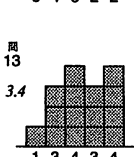
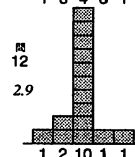
 問7 先生の単位はいりません、時間を返して下さい。(大卒後の再入学者より)



問6

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4	1	3	5	5	4	3	2	3	4	5	1	2	3	4	3	3

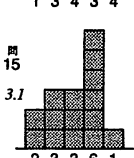
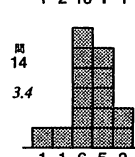
 全体 国家試験に出ないようなことは、試験に出さないで下さい。



問7

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	2	4	2	2	3	3	3	4	4	3	3	2	3	3	2	1

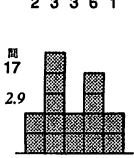
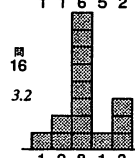
 問7 先生は、十時半でもない、6時を過ぎたら帰ってしまう。超水河期の就職難時代に、うらやましい職業です。できれば、なりたい。



問8

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	5	5	5	4	4	3	4	1	4	0	2	3	4	4	5	4

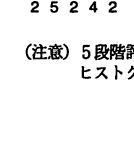
 問8 2時間目なのに、今さっき起きてきたような顔で授業をしないで欲しい。



問9

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4	2	5	4	5	3	5	4	5	3	2	3	4	3	4	3	2

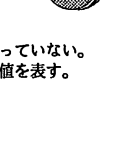
 全体 先生であっても、講義中は携帯の電源は切るべきです。



問10

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	2	3	3	2	1	1	2	0	2	2	3	1	1	2	3	3

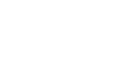
 問7 選択科目という名の必修科目が、なんと多いことか。



問11

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4	1	5	4	4	3	5	4	5	3	2	3	4	3	4	3	2

 全体 もう卒業だから、何を書いても恐くない。でも、いざとなると浮かばない。



問12

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
1	2	3	3	3	3	2	1	1	1	2	2	3	3	2	1	4

 問7 今回はデータ集計を外注し、筆記から個人を特定できない方法をとった。



問13

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
1	2	2	2	2	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	2	1

 問8 自由記述が無い方が、データ整理をする者にとっては楽である。

問14

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4	5	3	2	4	3	2	3	2	2	3	3	3	2	4	3	2

 問7 自由記述が無い方が、データ整理をする者にとっては楽である。

問15

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
3	4	3	4	3	2	4	2	5	4	5	3	5	4	5	3	2

(注意) 5段階評価欄に1~5以外が書かれてあるもの、あるいは無回答のものは全て0とし、0が記載されている個所は統計処理を行っていない。ヒストグラムは、左から1・2・3・4・5の評価順で回答番号がカウントされ、問番号の下にある値は、ヒストグラムの平均値を表す。

図5 科目別統計表サンプル (非実在科目)

3 授業評価の実施後アンケート

授業評価の実施方法および内容に対する意見感想をフィードバックし、以後の評価活動の参考にするため、平成8・9年度ともに教官と学生の双方に実施後アンケートを行った。

3.1 教官へのアンケート

例として平成9年度の教官へのアンケート内容と回答用紙を以下に示す。

「学生による授業評価」に関するアンケートについて（教官）

視覚部では、昨年度末に3年計画の最後の授業評価を実施し、その総合集計結果と科目別の結果を各先生方にフィードバックしました。実施に当たっては、その取りまとめと集計を外注し、調査結果については担当科目の各先生方のみ通知し、公表はしないということで行いました。（実施した科目の総数については、下記に学科等別にまとめましたので御参照ください。）

現在教務委員会視覚部分科会では、平成8・9年度の実施状況をレポートにまとめ、先生方にお知らせしたいと考えています。先に述べましたように「公開はしない。」という前提で行いましたが、各先生方の判断で差し支えない範囲で御意見やデータを出していただき、これも加えた形で取りまとめたいと思っております。

つきましては、昨年度末に引き続いてのアンケートで恐縮ですが、別紙に御意見をいただきたくよろしく申し上げます。

なお、本アンケートでいただいた御意見等は、平成8・9年度のまとめとしての参考、または掲載させていただく場合があることを予め御了承ください。

また、本アンケートと並行して、独自の授業評価アンケートを作成実施された方もおられることと思います。その場合は、お差し支えない範囲で独自のアンケートの中身と結果についてご報告いただければ幸いです。

〔平成9年度学生による授業評価実施科目数一覧〕
省略

「学生による授業評価」に関するアンケート回答用紙（教官用）

※ 自由記述をお願いします。6月19日（金）までに、西事務室教務係カウンターの回収箱に投函してください。（記名又は無記名どちらでも結構です。）

- 1 平成9年度実施分について、特に以下の項目に対する御意見（自由記述）
 - ・ 実施時期、方法について
 - ・ フィードバックされたデータの内容及び方法について
 - ・ 授業評価がご自分の授業に反映されたかどうかについて
 - ・ その他
- 2 今後、授業評価を実施する場合についてのご意見（自由記述）
（平成7年度実施分についてはテクノレポート第4号に掲載されています。平成8、9年度実施分については、まとめてテクノレポートにて報告の予定です。）
- 3 独自アンケートも行われた場合、その概要と結果についてお聞かせください。
（自由記述）

3.2 学生へのアンケート

例として平成9年度の学生へのアンケート内容と回答用紙を以下に示す。

「学生による授業評価」に関するアンケートについて（学生）

昨年度（平成9年度）末に3年計画の最後としての「学生による授業評価」を実施し、その結果を外注集計の後、4月中旬に各教官に科目別にしてフィードバックしました。授業評価の実施は各教官一科目以上という条件で実施しましたが、その結果の実施科目数の状況は以下の通りです。

また、全評価科目の質問項目別総合集計結果を添付しました。

一方、前回のアンケートでは教官側からは

- いくつか参考になる意見があった。
- 思ったより低くショックだった。
- 授業に反映し取り入れている。
- 反映するよう努力する。
- 反省点として受け止めた。
- 教材づくりの励みにはなる。

といった感想が述べられています。

これらの結果を参考にして、授業評価の主体である学生の皆様からの率直な意見をお聞かせください。今後の授業評価、カリキュラム作成等の参考にしたいと思います。

〔平成9年度学生による授業評価実施科目数一覧〕
省略

「学生による授業評価」に関するアンケート回答用紙（学生用）

提出期限：平成10年6月19日（金）

提出場所：西事務室教務係カウンターの回収箱に投函してください。

（記名又は無記名どちらでも結構です。）

以下の質問にお答えください。

- 1 授業評価のフィードバックによって授業が変わったと思いますか。あるいはアンケート実施前後で変わったと思う点がありましたか。
- 2 評価項目に関しての意見をお書きください（調査票を参考として添付しました）。
 - ・ 入れて欲しい評価項目
 - ・ はずして欲しい評価項目
 - ・ その他（評価方法等について）
- 3 回収方法について
- 4 実施時期について
- 5 実施教科数について（一人1科目以上）
- 6 授業評価には正直に答えられたと思いますか。
素直な気持ちで評価表の記述ができましたか。不安を持って答えましたか。
そのほか、どんなことがありましたか。
- 7 授業評価の意義についてはどう思いますか。
授業評価を実施して良かった点、悪かった点など。
- 8 その他どんなことでも（自由記述）

3.3 アンケート結果

3.3.1 教官アンケートの結果

(1) 平成8年度実施分

①実施時期・方法について

- ・ 3 学期あるいは 1 学期末
 - ・ 現状でも良いが、試験後少し時間をおいてからのほうが良いかもしれない。
 - ・ 通年でない科目は、各学期末に行える方がよい。
 - ・ 3 学期試験前。実施にあたっては直筆回答用紙は決して直接授業担当教官の眼には触れないことを学生に理解徹底させる。
 - ・ 1・2 学期のみ開講授業にも対応させる。
 - ・ 回収について 必ずしも他の教官が回収しなくても学生が直接事務に持って行けばそれで済むと思います。
 - ・ answer 1～5 の表に各数字に対するコメントがないので、分かりにくかった。
 - ・ 大きな問題がなければ、このままもう少ししばらく継続してみる。
 - ・ 実施時期は、他には考えられない。方法については、問題点などをより具体的に把握できるようにするために、例えば授業担当者以外で公正中立な立場の者による面接聞き取りなどを併用してはどうか。
- ②フィードバックされたデータの内容及び方法について
- ・ 1 科目については学生の要望が授業の軌道修正を越えたものであった。学生達から不信任と評価され、対策というより苦悩した。質問 1 を 5 と評価してくれた学生がクラスの 1/2 いたことで救われた。評価を受け入れるのは苦痛だった（が何とか対処しようと思った）。
 - ・ 現在のやり方では、これ以上のデータはとれないだろう。
 - ・ いくつか参考になる意見がありました。
 - ・ 返却直後には「思ったより低かった、ショックである」というインパクトがあったが、すぐ忘れた。ショックを記憶に留め、改善への動機付けとなるような結果の提示方法を考える必要があるのかも。
 - ・ 授業担当科目が視覚障害の理解に関するものであるため、設問 11、同 14 は答えにくい内容であることを反映した評価となっている。
 - ・ 集計・表示法について グラフの表示法が分かりづらい。凡例がないので数値の意味がとりにくく、縦横軸がそれぞれ何かも分からない。（一例として、表を見て照らし合わせないと、グラフの右の方が 5（強く思う）なのか 1（まったくそう思わない）なのか分からない。→評価 5 段階云々の説明は、5、4、3、2、1 の順なのも混乱要因）
 - ・ 全科目における質問別の平均±SD 値のようなものを出して欲しい。
 - ・ よいと思います。
 - ・ 具体性に欠ける。
- ③授業評価が自分の授業に反映されたかどうかについて
- ・ 今年度授業に反映し取り入れている。
 - ・ 多少は反映したつもりである。
 - ・ 反映すべく努力中です。
 - ・ 学生は結構厳しいね、ということとはともかく分かった。このままではまずいということも自覚できた。しかし、自由記述欄は読むが数値回答はどうしても印象に残らない。
 - ・ 反映された。
 - ・ 反省点として受けとめた。
 - ・ 教材作り（点字、触図）の励みにはなる。
 - ・ 反映したいと考えています。
 - ・ とくに反映されてはいない。
- ④その他
- ・ 質問 11-14 の評価が他の項目に比べやや低い（質問 6-10 も同様に低い）のは、授業内容に対する評価というよりカリキュラム（科目配置）に対するやや不満の表れだと思います。カリキュラムに対する学生の評価をどのように吸い上げてカリキュラムを改良更新していくかも課題の 1 つです。質問 16 の評価が低いので学生は正直に書いたのだと安心しました。
 - ・ 実習科目に関する評価の項目がほしいと思います。
 - ・ 講義を受けるための学生側の準備に関する評価があると良いと思います。参考資料の呈示や義務づけなど。
- ⑤次年度（平成 9 年度）授業評価実施に向けての意見
- （特に、実施結果を公表するとした場合、どの程度まで公表したらよいかなど）
 - ・ 自由意見の公表については慎重にする。（公平でない無責任な意見があると思われる）。
 - ・ 学生から意見を直接聞く方が良い、ただし正直に意見を言えるような場が必要であるが。
 - ・ 公表については、どうしてももめると予想される。3 カ年計画にこだわらず、8 年度分も公表予定なら、何をどこまで公表するかもう 1 度教官会議等で話し合うべきであろう。個人的には個人名さえ特定できない形であれば、すべて公表しても問題ないと考えていますが。
* アンケートに答えながら、実は自分への返却データを見つけだせなくて困っています。整理して下さった方に申し訳ありません。情けないですが、その程度のものとはどこかで軽く感じていたのも事実かもしれません。
 - ・ 公表について
全体のことは個人の問題ではないので当視覚部のことを社会にフィードバックするためにも公表する。個人のものについては個人を特定しない範囲で同意する教官のものを数例公表。

- ・基本的に実施結果は公表すべきであるが、程度については学科内・学科外・学外等において段階差はある。一度に理想的なものはできないので、毎年実施して改良していけばよい。
- 原則的に、委員会に任せて意見が反映しやすいような態勢であればよい。
- ・総合結果だけ公表してよい。
- ・公表については意見が分かると思われるが、公表する際には、母集団の少なさ、個人差の大きさ等、統計としては非常に信頼度の低いものであることを明記する必要があると思われる。
- ・公表するなら一部でなく全部公表すべきだと思います。
- アンケートの方法から結果まで客観的に記述すれば良いと思います。
- ・1科目でよい。
- 授業科目の目的に沿わない設問項目の削除。
- ・「どの教官の評価」かが、第三者にわからないようにしておくことを原則とする。
- この原則を守る範囲の公表とする。
- ・個人を著しく責めるようなものにならなければ、ある程度の公開は問題ない。ただし、問題点や学生の考えがより明確にわかるような実のある調査にしてもらいたい。

(2) 平成9年度実施分

①実施時期、方法について

- ・授業時間内に配布回収する。
- ・1学期から実施した方がよい。
- ・今まで通りでよい。
- ・実施時期、方法は概ね良好であった。
- ・ほかに適当な時期がないので現行通りでよい。回答の回収は当該教官でも実行上問題はないように思う。あまり形式にとらわれない方がよいのではないか。
- ・時期方法：よい。
- ・質問内容をもう少し系統立てて、評価対象が明確になるようにしたらよい。

②フィードバックされたデータの内容及び方法について

- ・説明の方法、授業内容については若干難しいところは省略した以外ほとんど変えなかった。
- ・まとめ方が分かりにくい。特にヒストグラム(スケールも入れてほしい)
- 設問文と結果を近い場所に併記すると良い。(別紙では分かりづらい)
- ・個人情報個人に通知するとして全体的に分析や整理した結果は公表してよいと思います。この場合はどの

様な結果を公表するかを会議で了承をとっておくとよいと思います。

- ・今まで通りでよい。
- ・「総合集計結果」があるが、(学部単位で)ほとんど意味がない。というのは自分に対する評価と比較した検討ができないからである。そのためには「学科単位」での総合集計が必要と思う。また内容のこなる学科を集計において「まぜる」のは、統計的にもおかしいと思う。
- ・フィードバックされたデータは参考になった。
- ・わかりやすいが、自由記述を増やすと、より明確になると思う。
- ・学生がどういう状況にあるか、どのように認識しているかがわかった。
- ・学科別に平均の統計があるとよい。
- ③授業評価が自分の授業に反映されたかどうかについて
- ・次年度に取り入れた。
- ・YES
- ・多分反映されると思います。
- ・自己評価として利用している。
- ・反映させたい。
- ・評価結果は授業に反映させた。
- ・参考にしてている。
- ・充実した授業を目指す上での参考となる意見があった。今後の授業法について反映させていきたい。徐々に反映されている。
- ・反映するよう努力し、気を引き締めて授業にあたっている。しかし、学生との間に(授業中)ある種のバリア(障壁)を張るようになった気がする。
- ④その他
- ・授業に出てこなかった学生からやや感情的評価(たとえばオール1)を受けたと思う。総じて学生からの授業評価により、準備に使う時間に比して報われない思いで、精神的にストレスを受けた。
- ・学生に用紙を渡しておき自分で教務の回収箱に入れるという方法の方が良かったと思います。授業時間もとられないし。ただ回収率が低下するかもしれないが。
- ・実施要領に例文があったが不適切な内容である。
- ・共通の評価事項よりも個別の学生の意見で参考になることがあった。(拡大図について)引出し説明を点字から墨字に変えた。
- ・学生からの正当とは思えないような評価もある。
- ・努力しない学生に限って見当違いな評価をしてくる傾向が感じられる。質問内容をもう少し具体的にし、誤解の内容にする必要を感じる。
- ⑤今後、授業評価を実施する場合についての意見

- ・結果の要点のみでよいから学生にも知らせてはどうでしょうか。
- ・主旨を学生に説明する。公表する情報は何かを承認してもらおう。
- ・毎年実施するのは、同じような結果を得そうなので、隔年ごとにすれば、例えばある学生は1年と2年のとき、ある学生は2年のときだけとなるが、実施する方も、学生も新鮮さが感じられると思う。
- ・学生の立場で授業担当教官に対して改善してほしいことを具体的に記述してもらうような設問を入れておくことが望ましい。
- ・学生が率直に回答できるよう一層の工夫をする必要がある。
- ・授業評価の実施時期が短期間のために、評価する学生側がうんざりして好い加減な記入になる傾向があるとのこと。
- ・自己点検自己評価の意味からも継続して実施して欲しい。1学期2学期の講義についても実施して欲しい。3学期にわたり全教科を対象にするのは難しい場合は「年度ごと」とか「教官が評価してほしい教科」などで実施できるよう検討していただきたい。
- ・回収はまとめて行わずに学生が各自で回収箱に戻す方式でよいのではないか。配布も授業中に行わず、別途渡す方法の方がよい。
- ・科目数はもう少し増やした方がよい。教官の希望で科目選択せず、抜き打ちに行うのはどうか。
- ⑥独自アンケートも行った場合、その概要と結果について
 - ・1学期末にやる予定。

3. 3. 2 学生アンケートの結果

(1) 平成8年度実施分

回答なし

(2) 平成9年度実施分

1名からの以下のような回答があった。

- ①授業評価のフィードバックによって授業が変わったと思うか。あるいはアンケート実施前と後で変わったと思う点があったか。
 - ・変わっていない
- ②評価項目に関しての意見
 - a 入れて欲しい評価項目
 - ・なし
 - b はずして欲しい評価項目
 - ・9番 理由：個々の学生に依じるのは無理
 - c その他（評価方法等について）
 - ・5点ではなく10点評価の方がいい

③回収方法について

今のままでよい

④実施時期について

回答なし

⑤実施教科数について（一人1科目以上）

回答なし

⑥授業評価には正直に答えられたか。

素直な気持ちで評価表の記述ができたか。不安を持って答えたか。

そのほか、どんなことがあったか。

- ・書いた評価表は集計後はどのようになるのか。処分するのか、残してあるのか。

⑦授業評価の意義についてはどう思うか。

授業評価を実施して良かった点、悪かった点など。

- ・良かった点：教官に直接言えないことが伝えられる。
- ・悪かった点：授業評価をしても教官の授業の変化がない（全員の教官ではない）

⑧その他

- ・今まで行ってきた授業評価は、教官にどう受け止められているのか知りたいです

4 考察

(1) 評価結果をみて

平成8年度と9年度の集計結果を比較してみても分かることは、各質問項目の回答平均はいずれも0.2ポイント以内で、ほぼ同じ値になっている。平均で比べるとほとんど差はない。また棒グラフに見る5段階評価の分布形状、分布率もそれほど大きな変化は見られない。細かくみると、9年度は実施科目数の減少を反映して、延べ評価人数はおよそ70人ほど減っている。5段階評価の最高点5を獲得している評価項目は6件減少している。2, 3, 4, 6, 11, 17番である。これを見る限り8年度の評価結果が9年度の授業改善に結びついたとは言いがたい状況である。先に述べたように、学生個々の評価結果が教官に漏れてしまうのでは？、という学生側の疑念を取り除いた結果、9年度の方がより本音で評価した結果が現れたとも考えられる。

(2) 評価項目の設定

今回は簡潔で効率的な評価方法として項目をかなり少な目にし、かつ混在的に入れた訳であるが、一般教養科目と専門科目といった学科目による特性、医学系と情報系の学科の特性を反映した質問設定も必要であろう。特に11番のような資格試験や就職試験に関する有益性は学科教育の方針の根幹に関わることであり、一律な評

価基準では計れないと思われる。今後の検討課題である。

(3) 集計方法について

今回の授業評価3年計画では科目別評価と全科目平均をフィードバックした。全体平均に対して自分の評価がどの位置にあるのかを知ることは大変参考になる。しかし各教官の側からは自分の担当する授業が同族学科科目の中でどのような位置付けと評価を得ているのかがさらに知りたいところである。学生の評価基準は、学科の特性、学科目の性質、学科学生の性向を反映して、学科間で同じでない可能性が十分あるからである。したがって少なくとも学科ごとの評価平均を集計添付することはそれなりの意義がありそうである。

5 課題と今後

8年度の学生からの実施後アンケートの回答がゼロであったため、9年度は学生アンケートを廃止する意見が教務委員会での大勢であったが、執行部より面白い試みであるから質問方法を変えてもう一度実施してみたらどうかとの意見があり、実施に踏み切った。しかしながら結果は1名のみのお返事が得られただけであった。学生アンケートを作成するに当たっては、授業評価結果の平均集計と教官の声・反応を一部添付したり、質問項目を細かくしてポイントを掴みやすくした。また当初は回答しやすい〇×式を考えてみたが、項目が多岐にわたり、かえって煩雑になる可能性があり、今回はやはり記述式を採用した。しかしながら、回答の回収性を重視するのであれば、内容は少々犠牲になっても、簡単な質問を〇×式で回答させる手はあったかもしれない。学生の声が重要であることを考えるとこれは今後の検討課題である。学生と評価活動の間に溝ができ、どうせなにも変わらないといったあきらめ感がでないよう努力していかなければならない。

評価項目も初めての試みであったことと、3年計画であったため、3年間は内容の大幅変更は行わなかった。質問項目の並びには一貫性が感じられない面もあったかも知れない。欲張りすぎると項目数が多くなりすぎて、学生の負担が増えて正しい評価が得られにくくなるし、少なすぎでは何を評価しているのかを判断するための十分なデータが得られない。ここら辺のトレードオフが結構難しそうである。今後は学科ごと、あるいは科目の種類ごとに質問項目を変える方がよい可能性もある。たとえば今回の「就職や資格試験に役立ったか」といった質問と「視野が広がり教養が身についたか」といった質問は表裏の関係にあり、質問の趣旨にそぐわない多くの科目の存在が予想される。また「学生の進捗に対応した指

導が行われたか否か」といった質問も、学力格差の大きな本学の授業では難しい面がありそうである。

結果のプレゼンテーション方法としては、レーダーチャートなどのグラフ表示によって科目別評価結果が一目瞭然となるような工夫および設問の絞り込みと設定が必要かも知れない。

おわりに

授業評価を含む自己点検・自己評価についても、先の大学審議会の答申では「自己点検・評価については、ほとんどの大学等で実施されているものの形式的な評価に陥り教育研究活動や組織運営の改善に十分に結びついていない、外部評価や第三者評価などが十分に行われるに至っていないなどの問題点が指摘されている。」と総括を受けている。また、「大綱化から10年近く経過し、自己評価がまさに形骸化、形式化している」とも言われる中、再度この度の大学改革ブームを問い直そうという動きも見られる⁽⁶⁾。

入試改革や高校の指導要領改定により、今後さらに多様化すると予想される学生に対応するには授業評価にとどまらずメディア教育（補習教育）やファカルティ・ディベロップメントに向けての全学的体制づくりが急務となろう。

参考文献

- (1)小島清志（1998）一層高まる高等教育への進学率—平成10年度学校基本調査速報から—、教育と情報、No.488、42-47.
- (2)天野郁夫（1997）大学に教育革命を、有信堂
- (3)大学審議会答申(1998) 21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—、文部省
- (4)清水一彦（1997）わが国の大学改革・大学評価のレビュー—21世紀の大学像を探る—、文教大学教育研究所紀要、6号、***.
- (5)森山朝正・宮川正弘・小池勝明・加藤 宏・大武信之、平成7年度における学生の授業評価実施報告、筑波技術短期大学テクレポート、No.4,15-20,1997
- (6)IDE現代の高等教育（1998）座談会「大学評価—何のための大学評価か」10月号、5-37

付録 授業評価の実施要領

平成9年度視覚部における「学生による授業評価」の実施について

1 目的

(1) 教官が教授内容・方法等の改善を図るため、学生による授業評価を実施する。

(2) 視覚部の教育に関する自己点検・評価活動の一環として行う。

2 適用範囲

調査結果については、教官個人の評価には用いないものとする。

3 評価項目

「視覚障害学生に対する教育の在り方について」を中心の評価項目とし、かつ、平成8年度の評価項目（以下の4項目）を継続する。

- ①障害補償への配慮
- ②職業技術教育の達成度
- ③学問や研究に対する啓発
- ④学生の授業参加への自己評価、授業の満足度・要望

4 実施方法等

(1) 実施教官

視覚部の教官全員とする。各教官は、1科目以上の授業科目について実施するものとする。ただし、非常勤講師については担当する学期・時間数が各々異なるので、実施の有無については、当該学科等及び当該非常勤講師に一任することとする。

(2) 実施時期

3学期の最終授業時に実施する。(2月19日(木)～2月25日(水)までの1週間)。ただし、この期間に実施できない場合には、その前週(2月12日(木)～2月18日(水))とする。

(3) 調査用紙

別紙「平成9年度学生による授業評価に関する調査票」(以下「調査票」という。)により実施する。

なお、調査票の他に、各授業担当教官が任意の質問票を作成し、調査票と併せて実施してもよい。ただし、その場合の質問票の回収は、当該授業担当教官が行うものとする。

(4) 対象となる授業科目

視覚部の全開設授業科目のうち、3学期に開講している授業科目とする。

ただし、1, 2学期に終了した授業科目については、当該授業担当教官に一任する。

(5) 実施の手順

① 実施授業科目についての事前調査

各教官に対し、どの授業科目で実施するかについて予め調査を行う。(1月下旬)

② 教官への調査票等の配付

①の調査に基づき、必要な部数の調査票及び回答用紙(いずれも墨字又は点字)を作成し、各教官に配付する。

なお、非常勤講師にあつては、当該非常勤講師の世話人教官を通じて配付する等の適切な方法により配付するものとする。

③ 調査票の配付及び回収

ア 各教官は、担当する授業時に調査票及び回答用紙を受講学生に配付し、調査を行う。

イ 当該授業の終了時に調査票及び回答用紙を回収する。

ウ 回収は、原則として当該授業科目担当教官以外の教官等が行う。

なお、回収教官等の調整は、教務委員会視覚部分科会委員等が事前に各学科等内で行うものとする。

エ 回収教官等は、回収した回答用紙を直ちに所定の回収用封筒に入れ、封印の上、所定の回収箱(西事務室に設置)に投函する。

④ 回答の集計

回答の集計は、外注で行う。

⑤ 集計結果の担当教官への送付

教務委員会視覚部分科会は、各授業科目についての集計結果を、封印の上、当該授業担当教官に送付する。

⑥ 回収した回答用紙及び集計結果の管理

教務委員会視覚部分科会において、回収した回答用紙及び個々の授業科目の集計結果を管理し、原則として非公開とする。

5 報告書の作成

(1) 個々の授業科目名及び担当教官名が特定できるような公表は行わない。

(2) 教務委員会視覚部分科会は、集計結果をもとに報告書を作成し、視覚部点検・評価委員会に提出する。

(3) 教務委員会視覚部分科会は視覚部点検評価委員会の依頼を受けて、筑波技術短期大学テクノレポートに授業評価の実施結果についての報告書を掲載する。

回答の集計方法及び各教官に送付される集計結果

(1) 個々の学生データの一覧表

筆跡等で個人が特定されないよう数値・自由記述ともコンピュータにより出力

(例) 省略

(2) 各設問についての当該授業科目の平均点と総合平均点

(例) 省略

(3) 各設問についての当該授業科目のヒストグラム(度数分布図)

(例) 省略

(4) 各設問についての全回答の平均点と総合平均点

(例) 省略